

# HopStepJump **2** 児童生徒理解を深めるために①

～ユニバーサルデザインの視点に立った  
授業づくりや学級づくりについて～

<https://toyono-jinjikyoo.com/>

第4回初任者研修は、「児童生徒理解を深めるために ～ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりや学級づくりについて～」をテーマに大阪薫英女学院高等学校の矢木克典先生に講義をしていただきました。矢木先生は長らく支援教育に携わられており、昨年度までは豊中市立第十七中学校で校長先生をされていました。

はじめに「障害」を社会モデルで捉え、適切な関わりの中で個性として発揮できる環境にすることの大切さについて教えていただきました。その後、矢木先生は子どもの気になる言動には何らかの理由があり、分析することが大切であると伝えられ、その一つの方法としてABC行動分析法を示してくださいました。さらに、ワークを通して人によって得意な認知特性や学習スタイルが異なることや、ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりや学級づくりのための実践事例をたくさん紹介してくださいました。

「障害は社会がつくり出すものである」と知ること、「障害はなくすることができるもの、限りなく障害を感じるこ  
とのない環境をつくり出すことができる」と考えを改めることができた。

障害の捉え方が医学モデルから社会モデルに変わりつつあり、社会的障壁の撤廃をめざす形に変化してき  
ていることを知りました。また、誰しものが特性をもっているのと同様に、障害を症状として捉えるという考えに変  
え、これからの対応に活かしていきます。

自分が担任をしているクラスにABC行動分析の時に挙げていた例のような児童がおり、大変参考になりまし  
た。どうしても減らしたい行動ばかりに注目してしまい、分析が足りていないことが身に染みて分かりました。  
また、自分一人で考えるよりも、クラスに入り込みに来てくださる第三者の方の意見が客観的でとても参考にな  
るとも思いました。

ABC行動分析のところで言われていた3種類の行動に対する対応が、今、自分が身につけなければならない  
技術・心構えだと感じました。私は教室において起こった全ての望ましくない行動について、注意したり、叱っ  
たりしています。それによってクラスがどんよりしたり、まじめに過ごしている子どもが楽しめない状態になっ  
たりしています。

3種類の行動のうち「減らしたい行動」についてはその場で注意するよりも、場合によっては無視した後、「望  
ましい行動に変化したときに褒める」ということが有効だと述べられており、そうしたいなと感じました。現在の  
私は、褒めることよりも叱ることが圧倒的に多いので、子どもたちを褒めることで望ましい行動や態度へ導くこ  
とにチャレンジしたいです。

問題行動に対して、その背景にある事情は様々だから、同じ行動をしているからといって、同じ対応をすれば  
いいわけではなく、その行動の背景としてどのような問題を抱えているのか理解することが重要だと感じた。  
そのうえで、やめさせたい行動については叱る、減らしたい行動については過剰に反応しない、増やしてい  
たい行動については具体的にほめる、と行動に対して対応を適宜変化させていくことが大切だと分かった。

子どもの間違っただけを指導する時は、「～しません」という否定的な言葉よりも「～しましょう」「～します」とい  
う望ましい行動を示す方が、子どもが理解しやすいということが分かった。嫌な気分にならないし、プラスに捉  
えることができるので、これから取り入れていこうと思った。

日々の授業準備のことばかりに気がっていた私にとって、非常にためになった。一斉授業が始まって一週間ほど過ぎたが、すでに学級はざわついた状態が続いていて、頭を悩ませていたところだった。「なぜあの子は落ち着かないのかな」「なぜノートを取ろうとしないのかな」という気持ちから「静かにして!!」と大声で言ったり、「ほらノート取って!」とせかしたりするなど、困っているポイントが今回の研修で出てきた例にそっくりそのまま当てはまっていた。そして、この研修を受け、改めて感じたことが、ただ目の前で起こっていることに対応するのではなく、その要因は一体何なのか、また、それによって生じる結果は何かなど、常に考えて行動することが必要だということだ。私は、子どもが起こす困った行動や、クラスのざわつく雰囲気等をその場しのぎで過ごしてきたのだ。それを踏まえて、授業、係活動、当番……とたくさん気になることがあるけれど、やはり何といっても目の前にいる子どもをどれだけ知ろうとするか、また、どうすることがその子のためになるのかを考えることを忘れないようにしたいと思った。これから児童理解のための知識を集め、クラスの子どもたちのことを考える時間を増やして、自分なりに良い方向にしていきたいと思っている。

私が担任しているクラスには動画の中で紹介されていたような特性をもった児童が何人かいる。私は今までその子たちの支援をどうしていくべきかばかりを考え、自分のことについてはあまり振り返ることができていなかった。動画の中で環境整備の大切さを学んだことから、見終わった後、実際に自分の机に余計なものを置くのをやめ、教室のものの配置なども見直した。それだけで、今まで分からないことがあったらすぐに聞きに来ていた児童も自分で考えて行動するなどの変化が見られるようになった。

自分が聴覚優位での暗記が得意ということや、順序立てられた説明がしっくりくるということを改めて認識すると同時に、そうでない児童も同じようにいるのに、「教師である自分にとっての一番わかりやすい」に偏った授業をしてしまっているのではないかとドキリとしました。

ユニバーサルデザインを取り入れることはとても難しく感じましたが、人によってとらえ方の得意不得意があるということを知りたくて頭に入れておきたいと思います。

今回の研修ではすぐに明日からでも実践してみたいと思えるお話をたくさん聞くことができた。現在、自分の学級には授業になかなか集中できない児童が数人いる。このことで短絡的に「話を聞かない子」と決めつけるのではなく、「なぜ聞くことができないのか」という視点で向き合っていきたい。

例えば、1年生で習うひらがなや漢字が習得できていない児童、文字の形をとらえるのが苦手な児童、算数に対して苦手意識の強い児童、45分間着席するのが難しい児童など、様々な学習面での課題を抱える児童がクラスにいる。課題は多岐に渡っているのに、授業の工夫が多様ではなかったと今回学ぶことができた。覚え方のスタイルに様々な方法があるように、教え方も様々な工夫を取り入れていきたい。また、クラスの中で自信をもてない子どもたちが自己肯定感を高めていけるよう、褒める場面を多くつくっていきたい。そのために、クラスのユニバーサルデザインについて考えていきたい。その際、講義の中でもあったできる子の待ち時間が長くなってしまうことが私の学級でも起きているので、全体のリズムやペースを考慮した授業づくり、環境づくりということを意識していきたいと思う。

支援教育という観点から子ども理解を基盤とし、授業づくりにつながる話まで広げて講義をしていただきました。すべての子どもたちがわかる・できる授業づくりの奥深さ、子ども理解を深め続けていくことの大切さを改めて感じる研修となったのではないのでしょうか。

ユニバーサルデザインの視点に立った授業については、『大阪の授業 STANDARD』に掲載されています。

## 『大阪の授業 STANDARD』 5. 授業のユニバーサルデザインをめざして

授業の参考になる具体的な事例も含め、詳しく掲載されています。

大阪府教育センターのWebページからダウンロードできます。